

水産海洋学会研究発表大会シンポジウム

平成28年12月13日 水産技術開発センター

11月25日に、東京海洋大学で、『我が国における漁獲量減少の真相に迫る②～漁獲努力量減少の側面から～』と題して標記シンポジウムが開催されました。

当センターの宍道弘敏研究専門員が、本シンポジウムの企画責任者の一人として参画しました。

全国で漁獲努力量（操業隻数など）が減少している状況やそれを踏まえた資源管理のあり方、マサバ、マアジ、スルメイカ、スケトウダラなどの漁獲努力量の変遷と漁獲動向、定置網漁業の動向などについて話題提供がありました。

- ①漁獲努力量が減少して漁獲量が減少した場合
- ②漁獲量の減少が漁獲努力量の減少を招いている場合
- ③燃油高騰などの影響で操業範囲が狭まっている場合
- ④加工場など陸上の処理能力の低下により漁獲量が制限されてしまう場合

など、漁獲量の減少には、地域や漁業種類によって様々な背景があることが認識され、有意義なシンポジウムとなりました。

